

令和7年度第2回一関市水道事業経営審議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第2回一関市水道事業経営審議会
- 2 開催日時 令和7年7月7日（月）午後3時から午後4時52分まで
- 3 開催場所 一関市役所 議会棟議員全員協議会室
- 4 出席者
 - (1) 委員 二階堂満委員（会長）、千葉理恵委員（副会長）、阿部博之委員、大浪友子委員、小野寺健一委員、佐藤一利委員、佐藤誠委員、高橋系子委員、富永敏弘委員、山川智美委員
※欠席者 荒木克明委員、石川晃委員、小野寺敏彦委員、小野寺真奈美委員、佐藤愛理委員
 - (2) 事務局 伊東吉光上下水道部長、佐藤耕一上下水道部次長兼水道課長、阿部正則上下水道部次長兼東部上下水道課長、小野寺勝也経営総務課長、米田理恵子経営総務課長補佐兼総務係長、畠山博文経営総務課長補佐兼水道経営係長、鈴木文香経営総務課主査、小野寺涼経営総務課主事

5 議 題

水道事業の将来の見通しについて

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人（うち報道機関1人）
- 8 二階堂会長あいさつ

6月下旬から暑い日が続いており、このような時期には水の大切さを改めて感じる。本日は第2回の会議となるが、平成27年度に現在の水道事業ビジョンが策定され、計画期間の満了に伴い、令和8年度から今後10年間の次のビジョンを考えることとなる。

水道事業に関しては、様々な課題がある。人口が減り、施設の老朽化が進むなど、あまり良い話がない状況下で、どのような解決策があるのか、非常に悩ましいところだが、水道というのは極めて重要なインフラであることから、市民の皆さんが納得できるようなビジョンにしていきたいと考えている。

今回、市の方から膨大で難しい資料を準備いただいたが、わかりやすく説明いただき、我々も自由闊達な議論を重ねて、良い方向に持っていけるような審議会にしていきたい。

9 審議内容

水道事業の将来の見通しについて、事務局から資料に基づき説明した。以下、質疑応答等。

委員 前回の会議での市長のあいさつの中では、ぼつんと3軒家のような集落が市内に点在しているため、水道管の延長が長いという話があった。

今回準備いただいた資料では、2040年までの将来人口推計が示されているが、将来的にぼつんと3軒家が無くなるどころも出てくると思う。

そうすると、水道管の延長が減る。このように、人口だけではなく、戸数を基準とした将来の見通しはあるのか。

事務局 現在、新しい総合計画の策定と併せて、より精度の高い人口推計を作成している。そのような視点は大事だと思うが、個々の集落がどのようになるかという推計は難しいと考えている。

委員 経営比較分析表というのは、総務省の様々な基準に基づいて作成されたものだと思うが、この資料は外部へ委託して作成しているのか。それとも、市が作成しているのか。

また、類似団体とは、人口が類似しているということなのか。

事務局 経営比較分析表は、委託ではなく、市が作成しているもの。作成後、総務省に対し報告を行い、総務省及び市のホームページで公開している。

類似団体については、人口規模のほか、産業構造を基準に分類されており、県内では奥州市が類似団体となっている。

10 意見交換

2班に分かれ、水道事業が目指すべき「安全」、「強靱」、「持続」について意見交換を行った後、各班から意見を発表し、全体へ共有した。

(1) 意見発表

1班 今日それぞれが持ち帰って、深掘りし、次回の審議会の冒頭で少しこの意見交換の話をして、まとめていきたいという意見があった。そのため、「安全」、「強靱」、「持続」に関して出た意見を紹介したい。

「安全」については、いつでも水が出るということが安全で安心感があるという意見のほか、良いことだけではなく、有害物質の分析結果などの情報公開をしていくことが、安心につながるのではないかという意見が出た。

「強靱」については、異常気象で大雨に起因した漏水や断水が過去にあったことから、異常気象に強い水道事業であってほしいという意見があっ

たほか、有収率の低下につながる漏水の早期発見をする手段を見つけることが、強靱化になるのではないかという意見が出た。

「持続」については、水道事業の経営や事業内容の通信簿的なものを定期的に公表していくのはどうかという意見のほか、水道に関する情報発信の仕方に関して、使用者に届くような工夫を行う必要があるのではないかという意見が出た。

他には、コンパクトシティ化して、水道管を短くすることや、水道水だけではなく、湧き水や井戸水をうまく活用すれば、これからの水道の持続につながるのではないかという意見があった。

また、安定的な収入確保策として、支払い方法にクレジットカード払いの追加や、納付書払いの使用者に対しては、郵券料や納付書の作成費用にお金が掛かってしまうため、解消するための取組を検討してはどうかという意見があった。

2班 「安全」については、安全な水質で安定的に美味しい水が飲めることを目指したらしたら良いのではないかという意見があった。

「強靱」については、災害に強く、断水してもすぐに水が供給できる状態、安定した水をいつでも誰でも飲めるようにするという意見があった。

「持続」については、これから施設の更新費用が掛かってくることに対して、市が説明したうえで、水道料金を上げることも仕方がないのではないかという意見があった。

(2) 二階堂会長から

現在は、安全安心な水が供給されて、それが当たり前のように感じるが、水道事業を今後も続けていくための新しいビジョンを策定することが重要だと思う。

全国的に災害が頻繁に起きており、地球温暖化もものすごい勢いで進んでいるが、そのようなことに対応した新しいビジョンも必要になるのではないかと感じた。

本日は貴重な意見が出たが、それぞれ十分に考えが出し切れなかったと思う。次回の審議会の前半部分でも使いながら、ご議論いただいて、将来像を言語化できれば良いのかなと思った。

(3) 伊東上下水道部長から

どのような意見が出るのかと聞いていたが、やはり我々が気づいていないことについてお話しいただいたと思っている。

情報発信について、それぞれの班からお話しがあったが、ネガティブな案件、例えば、水質や施設の老朽化の問題についても発信していくことが、信頼をいただけるのだということを発表の中で感じた。

また、通信簿のようなものを定期的に公表するというお話もあったが、川崎地域で実施したワークショップでも同様の意見があり、自分の水道料金が、どの費用にどのくらい使われているのかわからないと、水道料金を上げると言われてもピンとこないというお話をされる方もいた。

本日は時間が足らず、不完全燃焼のような形で終わったところもあると思うので、次回の会議の内容について事務局で準備したい。

11 その他

委員 東京都では水道料金の基本料金を4か月間無償化するという報道を見た。一関市でこのような発想は出るのかと考えたが、これはお金がある東京都だからこそ、できるのだろうなと私は思った。

もしそうだとすれば、お金があるところはお金がないところに応援するような仕組みがないとおかしいなと思った。

委員 今新しいビジョンを策定しようというところに来ているが、他の事業体の計画策定で模範となるような例があれば情報提供をいただきたい。

事務局 県内では、矢巾町の取組が先進的ということで報道されている。本日も行ったようなグループディスカッションを組織化し、年間を通じて議論しているようだ。

次回の審議会で、矢巾町の取組を資料として委員へお渡しできるかと思う。具体的などころまで踏み込めるかは別として、その他の事業体における取組について、資料を収集したい。

12 担当課 上下水道部経営総務課